

全球地球観測システム (GEOSS)に係る最近の動向について

GEOSS: Global Earth Observation System of Systems

□ 2014年1月 GEO閣僚級会合 於:ジュネーブ

「ジュネーブ宣言」を採択。地球観測に関する政府間会合（GEO：Group on Earth Observations）の活動を2025年まで継続することを承認。

我が国からは、櫻田文部科学副大臣他が参加。関係者との連携を深め、データ利用者の意見を反映させたGEOSS構築に取り組むことの重要性を強調

- GEOの功績を評価
- GEOの原則の再認識
- ステークホルダ（政策決定者、国連組織、国際プログラム等）との連携による GEO の拡大
- 国連持続可能な開発テーマへの貢献を考慮した、2025年までの新たな10年実施計画を準備

□ 2014年4月 新10年実施計画作業部会 (IPWG)

- 第1回 2014年4月 ジュネーブ
- 第2回 2014年6月 アテネ(予定)

GEO参加国の専門家（15名）と執筆チーム（10名）で構成されるIPWGで新10年実施計画（IP）の検討を開始。2014年11月の本会合で新IPの初案を提出予定。我が国からは、小池俊雄東京大学教授が参加。第1回会議で以下を提案。

- 災害リスク低減（国連防災世界会議等）や環境保護（持続可能な開発目標（SDGs）等）に関連した取り組みとの連携促進
- 分野間連携の促進
- 地域協力の促進

全球地球観測システム (GEOSS)について

GEOSS: Global Earth Observation System of Systems

経緯

持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD) (2002年9月)
環境保護と経済開発の両立に対する地球観測の重要性を強調

G8エビアンサミット(2003年6月)
10年実施計画の策定、閣僚会合の開催を合意

地球観測サミット

- 第1回 2003年7月 アメリカ (渡海文部科学副大臣)
- 第2回 2004年4月 日本 (小泉内閣総理大臣)
- 第3回 2005年2月 ベルギー(小島文部科学副大臣)

「**全球地球観測システム (GEOSS) 10年実施計画**」の策定

G8グレンイーグルスサミット(2005年7月)
10年実施計画の採択を歓迎する旨表明

G8ハイリゲンダムサミット(2007年6月)
GEOSSの発展においてリーダーシップを発揮することを確認

地球観測に関する政府間会合(GEO)閣僚級会合

2007年11月 南アフリカ (渡海文部科学大臣)
衛星観測、地上・海洋観測等の国際的な連携の強化を趣旨とするケープタウン宣言を採択

G8北海道洞爺湖サミット(2008年7月)
地球観測データに対する需要の増大に応えるため、GEOSSの枠組みにおいて、観測、予測及びデータ共有を強化する旨表明

G8ラクイラサミット(2009年7月)
気候変動に起因する自然災害及び極端な気象現象の増大した驚異に対処するため、GEOSS開発のための継続中の作業を支援する旨表明

地球観測に関する政府間会合(GEO)閣僚級会合

2010年11月 北京
2015年までのGEOSS構築に向けた戦略目標の推進や、観測データの登録とデータ公開の為の体制整備等を盛り込んだ北京宣言を採択

地球観測に関する政府間会合(GEO)閣僚級会合

2014年1月 ジュネーブ
2025年までのGEOSSの継続と、次回サミット(2015年末-2016年頭開催予定)での**新しい10年実施計画の策定**を盛り込んだジュネーブ宣言を採択

「GEOSS10年実施計画」の概要

- 国際的な連携によって、衛星、地上、海洋観測等の地球観測や情報システムを統合し、地球全体を対象とした包括的かつ持続的な地球観測を10年間で整備
- 災害、健康、エネルギー、気候、水、気象、生態系、農業、生物多様性の社会利益分野に対して、政策決定に必要な情報を創出することを目指す
- GEOSSを推進する国際的な枠組みとして、**地球観測に関する政府間会合(GEO: Group on Earth Observations)**を設立

地球観測に関する政府間会合 (GEO)

